



発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

3月神殿講話より

松尾太郎先生

立教186年3月月次祭の神殿講話には、加古大教会長の松尾太郎先生が登壇された(写真)。講話の一部を要約して紹介する(全文は下記QRコードから動画でご覧ください)。



私は教会の長男として生まれ、おそらく私の教会の信者さん方は、私が素直に教会を継ぐものと思っていました。ところが私は小学校の頃から、「どうやって教会から逃げるか」だけをテーマ

として生きてきました。鼓笛活動にも行かずに済むようにサッカーを始めました。プロサッカー選手になれば、教会長にならなくて済むだろうと考え、以来サッカーに打ち込み続けてその後実際にプロテストまで受けました。

高校生の時、進路を考える段階になって、両親に「自分は教会を継がなければいけないのか？」と尋ねたところ、「それは私たちが決

年間活動目標
今日を陽気に。
つながる、
つなげる。

YouTube
続きは
本愛大教会
公式チャンネルで
3月神殿講話
松尾太郎氏
加古大教会長

※上記のQRコードを読み取って、ご覧ください。本愛誌の読者限定で公開している動画ですのでチャンネル内の動画一覧からはご覧いただけません。

めることやない。神様が決めることや。神様がどうでも思ったら、お引き寄せになる」と言われました。

今ではその言葉の意味がよくわかりますが、当時は「継げとは言われなかった」ということを逆手に取って、「じゃあ何をすればいいか？」と聞いたところ、「人様の喜ぶことをしなさい」ということで、それから必死に勉強して医学部に進み、その後医師国家試験に合格しました。

本愛誌 リニューアルのお知らせ

今月号より本愛誌の判型をB5版(見開きB4)の大きさにリニューアルしました。掲載する字数は変わりません。パンチ穴が必要な方は、余白部分に印字されている△印をご活用ください。

また、最終面の各種統計は原則として氏名(直属教会名、または部属教会名)と表記するよう改めました。

ですので私は「人を助けたい」ではなく「教会から逃げたい」というなんとも不純な動機で医師になったのです。そんな自分の大きな転機となったのが、父の出直しだったのです。

入社祭	1日	午前10時
よふき会例会	2日	午前10時
月次祭	13日	午前10時
青年会例会	13日	午前10時
布教実修所	14日	午前10時
むつみ会例会	16日	午前10時
女子青年例会	16日	午前10時
ほんあいOKEIKO	16日	午前10時
こども食堂MOGU	17日	午後5時
教祖誕生祭	18日	午前10時
天理教婦人会第105回総会	19日	午前10時30分
本部月次祭	26日	午前9時
全教一斉ひのきしんデ	29日	

4月のこよみ

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人

前年の10月には、現在の教祖殿が完成

4月ということもあり、今回は教祖誕生祭について考えてみたいと思います。以前「教祖のお誕生日の4月18日は陽暦ですか？」という質問がありました。

結論から言うと、実はこの日付は陰暦です。教祖は寛政10年4月18日にお生まれになりました。誕生祭のポスターには桜が描かれています。よくありますが、

教祖がお生まれになった季節は、陽暦に直すと6月上旬の初夏の季節でした。

このことは『ひながた紀行』(道友社)にも詳しく書かれています。

教祖誕生祭の歴史

実は教祖誕生祭がつとめ



られるようになったのは比較的最近のこととで、初めて執行されたのは、昭和9年のことでした。その

ご存命の頃と同様にお仕えさせていただけるとなつたことを受け、中山正善・2代真柱様を中心として教祖誕生祭をつとめる準備が進められたそうです。

祭文では「今日の日まで遂いようか」と御誕生御祝の儀を粗漏に過ごして参りましたことは全く何とも申訳の言葉が御座いませんと奏上されています。



そもそも日本には、個人の誕生日を祝うという習慣はありませんでした。正月を迎えるたびに皆が一緒に年齢を重ねる、いわゆる「数え年」の考え方が一般的で、

初誕生と初節句はお祝いたようですが、それ以外はお正月が「皆の誕生日」でした。個人の誕生日を祝う習慣が広がったのは主に戦後の各種の法律で満年齢制が適用されるようになってからのことです。

先述の『ひながた紀行』では、教祖誕生祭が昭和9年まで行われていなかったのは、そうした理由によるものと考察しています。

ちなみにですが、明治16年当時の中山みき様の戸籍には「寛政十戊午年四月四日出生」と記載されています。「18日じゃないの?」と疑問に感じますが、後に二代真柱様はそのことについてもはつきりと理由を示しておられます。

いわく、戸籍には4月4日と記載されている。けれども、それは宗旨簿などから書き写された戸籍であり、当時は間違いも多かった。

父である中山眞之亮・初代真柱様が書かれた『教祖御伝』は日付を「18日」としており、初代真柱様はその後も折に触れて4日ではなく「18日」と訂正されている。その根拠は明らかではないが、『稿本天理教祖伝』編纂にあたっては、これを採用した。

その上で、御誕生の時前川家の上に五色の雲がたなびいていたという逸話についても考察を加えられています。さまざまな事情や文化の変遷があった誕生祭ですが、大切なことは、教祖を慕う私たち皆がそろってそのご誕生をお祝い申し上げ、心を一つにひながたの道を歩むことでしょう。教祖はそのことを何よりも待ち望んでおられるのです。

公式サイトと YouTube をご活用ください!

天理教 本愛 Q 検索

こんなに便利



- 大教会の行事日程を確認
- 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- その他お知らせ

楽しく学ぶ



- 祭典の様子をライブで視聴
- 大教会長の連載動画
- 神殿講話の限定配信

教理随想



言わん言えんの理を探る

テレビの電源を入れたのに映像が映らない。よく見るとコンセントが抜けていた。こんな経験は誰にでも一度はあるものです。私たちはテレビが映ったり部屋の電灯が点いたりすること

で、そこに電気が流れていることに気づきます。電気そのものを目で見ることはできません。あくまでも電灯やテレビ画像、あるいは電線が熱くなったりすることで電気存在を認識しているのです。

この考え方を私たちの体に置き換えてみるとどうなるでしょうか。人間の体が動いているエネルギーの源は電気でもガスでもないし、他の動力源でもありません。これは世間一般から見れば自然の働きとしか言いようがないし、しかもどんな機械よりも精巧で、どんな道具よりも便利にバランスよく作られているのが人間の体です。

これまでは「自然」という言葉でしか表せられなかった人体の働きを、教祖は「かしの・かりもの」という言葉で表現されました。つまり目には見えないけれども、親神様の「十全の守護」が動力源となつて動いているのが人間の体であり、それが私たち一人一人の心に貸し与えられていると教

えられたのです。さらに言えば、体だけが存在しても生きていくことはできず、体を正常に機能させるために水、熱、空気をはじめとする様々な恵みを与えて人間を守り、育ててくださっているのが親神様であります。すなわち、いかに優れた機械でも動力源がなければ動かないのと同じように、人間の体も「十全の守護」という動力源があるからこそ、自分の思うように動かすことができ、生きていくことができる。この事実を心に向けることから人間の幸せは始まる、と教えられているのが、「かしの・かりもの」の教えであります。

■反省とお詫びと感謝

大教会の初代会長様は、こんなにも精巧に作られている体が、親神様からの「かりもの」であることを知らず、恩に感じることに、報いることを忘れた心の使い方が、人間の病気やあらゆる事情の原因になつていと論されました。

道は発展してきたのです。火水風に代表される自然の恵みⅡ「天恩」と、体内の精巧かつ緻密な働きⅡ「神恩」に報いる行いがひのきしんです。

そして身上の障りを見せられた時、ただ単に「病気を治してほしい」などと望むのは身勝手な考えで、病んだり苦しんだりしなければならぬ心の使い方をまず反省し、お詫びすることが、病や災難からたすけていただく根本の道筋であること

を説き続けられました。この教えを素直に実践し、報恩感謝の心に切り換えることで、先人たちは鮮やかな守護をいただき、本愛の

道は発展してきてきたのです。火水風に代表される自然の恵みⅡ「天恩」と、体内の精巧かつ緻密な働きⅡ「神恩」に報いる行いがひのきしんです。

論達第四号には、「よふぼくは、進んで教会に足を運び、日頃からひのきしんに励み、家庭や職場など身近なところから、にをい、がけを心掛けよう」と示されます。ひのきしんは、教会内外のお掃除や祭典準備だけではありません。身近な所で困っている人に優しく声をかけるのも、一言の話を乗せて教えを伝える工夫も、すべてひのきしんです。

日々を健康に暮らせることの背景には、大いなる天恩と神恩があることを心に刻み直し、身近なところで

ひのきしんの精神を發揮して、自分らしくひながたの道を通っていきましよう。それが年祭へ向かう歩みの核心であります。

【第100回】

天恩神恩に報いる心を高め 身近なところでひのきしん

この考え方を私たちの体に置き換えてみるとどうなる

でしょうか。人間の体が動いているエネルギーの源は電気でもガスでもないし、他の動力源でもありません。

これは世間一般から見れば自然の働きとしか言いようがないし、しかもどんな機械よりも精巧で、どんな道具よりも便利にバランスよく作られているのが人間の体です。

これまでは「自然」という言葉でしか表せられなかった人体の働きを、教祖は「かしの・かりもの」という言葉で表現されました。

つまり目には見えないけれども、親神様の「十全の守護」が動力源となつて動いているのが人間の体であり、それが私たち一人一人の心に貸し与えられていると教

少年会本愛団

第53回少年会総会

本愛団の第53回総会は3月21日、大教会神殿で開催された。

今年はコロナ禍以降4年ぶりに十二下りのてをどりまなびを少年会員が交替でつとめた(写真)。その後「成人門出式」とアトラクションの抽選会が行われ、子供たちのにぎやかな声が響きわたった。

成人門出式では少年会長様からのご告辞(代読)を賜った後、育成会長から一人ずつ修了証書と記念品が授与された。



より多く参加を呼びかけ

4月からの本愛布教実修所

毎月14日に開催している本愛布教実修所では、今後より多くの参加を促すため、新年度から修了制度を廃止する。これにより4月以降は申し込み不要でいつでも参加できるようになる。

なお、参加初回に御供千円が必要。以下に実修所の実施予定を掲載する。

- ◇ ◇ ◇
- 4月14日
- 本愛布教実修所
- 午前10時 おつとめ
- 開講式・布教実動・ひのきしん
- 午後12時40分
- 教理講座
- 講師 鈴木真也・本豊國分教会長
- 「取り次ぐことができなかったおさづけ」

立教185年布教実修所修了者

- 栗原幸子(直轄)
- 吉田広子(直轄)
- 桑子久美子(本穂)
- 山本和恵(本定)
- 加藤礼子(本豊田)
- 相山とき子(本豊田)
- 花井富久代(本耕水)
- 松下すみ江(本道橋)
- 鈴木和加恵(本仁愛)
- 杉山久美子(本海門)
- 水谷八千代(本海門)
- 加藤徹雄(本南陽)
- 加藤みね子(本南陽)
- 大橋和代(本愛中)

2月のおさづけの理拝戴者

- 出口健人(本名)
- 2月の初席者
- 栗原壮梧(直轄)
- 伊藤亜耶(直轄)
- 松原奏(本耕)
- 鈴木智子(本道橋)
- 加藤光(本枇杷島)
- 上野孝之助(本孝徳)
- 大倉智加(本一心)
- 高橋和馬(本海門)
- 松浦愛華(本喜愛)

大教会日誌

令和5年2月25日～令和5年3月24日

2月

- 26日 本部月次祭 指図方・安藤正二郎 賛者・杉下和平、中島裕信
- 28日 常任役員会議◇役員会議 ◇祭典講話一加古大教会長・松尾太郎先生

3月

- 1日 入社祭 青年会例会
- 祭主・大教会長 扨者・青木健裕、杉村善男
- 指図方・野田正道 賛者・安井篤、長良英男
- 14日 布教実修所
- 祭主・大教会長 扨者・筑紫英一、野田正道
- 指図方・安藤正二郎 賛者・大池美公雄、山本治行
- 16日 むつみ会例会
- 2日 よふき会例会
- 17日 こども食堂MOGU (参加者60人)
- 12日 常任役員会議
- 19日 ほんあいOKEIKO (参加者17人)
- 13日 月次祭
- 20日 婦人会例会
- 祭主・大教会長 扨者・田中新一、加藤成幸
- 21日 少年会本愛団第53回総会
- 女子青年例会